

(案)

## 第五次国有林野施業実施計画書

(胆振東部森林計画区)

計画期間 ( 自 平成28年4月 1日  
至 平成33年3月31日 )

策定年月日：平成28年3月 日

北海道森林管理局

## 目 次

1	国有林野の区画の名称及び区域並びに機能類型及びエリア別の区域	1
2	施業群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量	
	(1) 伐採造林計画簿	1
	(2) 水源涵養タイプにおける施業群別面積等	1
	(3) 水源涵養タイプの施業群別の上限伐採面積	2
	(4) 伐採総量	2
	(5) 更新総量	4
	(6) 保育総量	4
3	林道の整備に関する事項	5
4	治山に関する事項	6
5	保護林及び緑の回廊の名称及び区域	
	(1) 保護林の名称及び区域	7
	(2) 緑の回廊の名称及び区域	7
6	レクリエーションの森の名称及び区域	8
7	公益的機能維持増進協定の名称及び区域	10
8	その他必要な事項	
	(1) 施業指標林、試験地等	11
	(2) フィールドの提供	12
	(3) 森林共同施業団地	12

---

- 1 国有林野の区画の名称及び区域並びに機能類型及びエリア別の区域  
国有林野施業実施計画図（別添1）による。
- 2 施業群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量

- (1) 伐採造林計画簿  
伐採・更新箇所ごとの伐採・更新面積及び方法等については、伐採造林計画簿（別添2）による。
- (2) 水源涵養タイプにおける施業群別面積等

（単位：h a）

区分	面積	取扱いの内容	伐期齢又は回帰年	
			樹種	
単層林施業群	6,754	人為を積極的に加えることにより、単層状態の森林を造成・維持する。  【施業方法：育成単層林へ導くための施業】	トドマツ	65年
			アカエゾマツ・エゾマツ	80年
			カラマツ・グイマツ	50年
			スギ	65年
			その他針葉樹	60年
長期単層林施業群	335	人為を積極的に加えることにより、伐期の長期化を図り、単層状態の森林を造成・維持する。  【施業方法：育成単層林へ導くための施業】	トドマツ	100年
			アカエゾマツ・エゾマツ	120年
			カラマツ・グイマツ	80年
			スギ	100年
			その他針葉樹	90年
複層林施業群	9,817	人為を積極的に加えることにより、複数の樹冠層を有する森林を造成し、将来にわたり非皆伐状態を維持する。  【施業方法：育成複層林へ導くための施業】	トドマツ	伐採始期 60年 伐採終期 100年
			アカエゾマツ・エゾマツ	伐採始期 70年 伐採終期 120年
			カラマツ・グイマツ	伐採始期 40年 伐採終期 80年
			スギ	伐採始期 50年 伐採終期 80年
			その他針葉樹	伐採始期 50年 伐採終期 90年
混交林施業群	2,875	必要により人為を加えることにより、広葉樹等の導入・育成を図り、針広混交林を造成・維持する。  【施業方法：育成複層林へ導くための施業】	30年	
育成天然林施業群	22,573	必要により人為を加えることにより、多様な樹種による複数の樹冠層を有する森林を造成・維持する。  【施業方法：育成複層林へ導くための施業】		
天然生林施業群	3,941	天然力を活用することにより、森林を造成・維持する。  【施業方法：天然生林へ導くための施業】		
その他施業群	—	他の施業群の取扱いになじまないもの。取扱い内容は個別に定める。	個別に定める。	
合計	46,295			

注) 林地面積の集計である。  
計は四捨五入の為、必ずしも一致しない。（以下の表についても同じ）

(3) 水源涵養タイプの施業群別の上限伐採面積

(単位：ha)

施業群	単層林	長期単層林	複層林	混交林	育成天然林	天然生林	その他
上限伐採面積	501	21	1,731	479	3,762	657	—

(4) 伐採総量

(単位：m<sup>3</sup>、ha)

区 分	林			地		林地 以外	合 計
	主 伐	間 伐	小 計	臨時伐採量	計		
山地災害防止タイプ	—	(179) 4,923	4,923				
自然維持タイプ	—	—	—				
森林空間利用タイプ	—	(142) 4,432	4,432				
快適環境形成タイプ	—	—	—				
水源涵養タイプ	単層林	(2,578) 2,009 110,053	112,062				
	長期単層林	(28) — 821	821				
	複層林	(2,673) 3,289 96,955	100,244				
	混交林	(616) 995 27,728	28,723				
	育成天然林	(103) — 5,576	5,576				
	天然生林	—	—				
	その他	—	—				
	計	(5,998) 6,293 241,133	247,426				
合 計	6,293	(6,319) 250,488	256,781	20,000	276,781	—	276,781
年 平 均	1,259	(1,264) 50,098	51,356	4,000	55,356	—	55,356

注) 上段 ( ) は、間伐面積である。

## (再掲) 市町村別内訳

(単位: m<sup>3</sup>、ha)

市町村名	林 地				林 地 以 外	合 計
	主 伐	間 伐	小 計	臨時伐採量		
苦小牧市	4,284	(2,310) 94,819	99,103			
白老町	1,435	(2,107) 83,751	85,186			
むかわ町	574	(1,902) 71,918	72,492			
合 計	6,293	(6,319) 250,488	256,781			

注1) 市町村別内訳には、臨時伐採量及び林地以外の土地に係る伐採量は含まれていない。

注2) 上段( )の数値は間伐面積(ha)を表し、合計は四捨五入の為、必ずしも一致しない。

## (5) 更新総量

(単位：h a)

区 分		山地災害 防止タイプ	自然維持 タイプ	森林空間 利用タイプ	快適環境 形成タイプ	水源涵養 タイプ	合 計
人工 造林	単層林造成	-	-	-	-	8	8
	複層林造成	-	-	-	-	37	37
	計	-	-	-	-	45	45
天然 更新	天然下種第1類	-	-	-	-	237	237
	天然下種第2類	-	-	-	-	18	18
	ぼう芽更新	-	-	-	-	-	-
	計	-	-	-	-	255	255
合 計		-	-	-	-	299	299

## (6) 保育総量

(単位：h a)

区 分		山地災害 防止タイプ	自然維持 タイプ	森林空間 利用タイプ	快適環境 形成タイプ	水源涵養 タイプ	合 計
保 育	下 刈	6	-	888	-	14,261	15,155
	つる切り	7	-	40	-	609	656
	除 伐	54	-	293	-	4,481	4,828

3 林道の整備に関する事項

基幹・その他別	開設・改良	路線名	箇所(林班)	延長(m)	箇所数(改良)	備考
胆振東部森林管理署						
基幹	開設	王古丹林道八幡線	2070~2071	1,900		むかわ町
	計	1路線		1,900		
その他	開設	勇振	1217~1220	2,600		苫小牧市
		丸山支線	1257~1259	2,400		〃
		厚平内支線	1177~1178・1209	2,800		〃
		左の沢	152~154	2,100		白老町
		5点沢連絡	68~69	1,800		〃
		萩野第1	71	2,000		〃
		白水沢右股	29・34	1,100		〃
		藤山の沢	2148・2150	800		むかわ町
		オロロップ1号	2103・2105・2106	3,600		〃
		オロロップ4号	2106~2107	3,000		〃
		オロロップ6号	2103~2105	1,900		〃
		稲里3号	2138・2141	1,900		〃
		稲里5号	2128~2130・2133	2,700		〃
		新登川2号	2173~2174	2,300		〃
		王古丹支線	2080	2,300		〃
		トサノ沢	2123~2124	2,400		〃
		坊主山支線	2122	1,700		〃
計	17路線		37,400			
基幹	改良	社台林道別々線	210	20	1	白老町、溝渠工
		福富林道島呂布線	2123	200	2	むかわ町 擁壁工、溝渠工
	計	2路線		220	3	
森林計画区合計						
開設	基幹	1路線		1,900		
	その他	17路線		37,400		
	計	18路線		39,300		
改良	基幹	2路線		220	3	
	その他	路線				
	計	2路線		220		

注) 災害復旧等緊急を要する改良については、指定箇所以外においても実行ができるものとする。

4 治山に関する事項

位置	区分	工種	計画量	備考
胆振東部森林管理署				
覚生沢下流 285, 286, 290~292	保全施設	溪間工	5箇所	苫小牧市
苫小牧川上流 1337, 1342	保全施設	溪間工	1箇所	〃
飛生川 12, 17, 19, 26, 28	保全施設	溪間工	4箇所	白老町
トドマツ沢 95, 96	保全施設	溪間工	1箇所	〃
イオニップ川 2006, 2009	保全施設	溪間工	1箇所	むかわ町
大崩沢 2120	保全施設	溪間工	1箇所	〃
飛生川 12, 22	保全施設	山腹工	4箇所	白老町
カンケンナイ沢	保全施設	山腹工	1箇所	むかわ町
森林計画区合計	保全施設	溪間工	13箇所	
		山腹工	5箇所	
		計	18箇所	
	保安林の整備	植栽工	- ha	
		本数調整伐	- ha	
		計	- ha	

5 保護林及び緑の回廊の名称及び区域

(1) 保護林の名称及び区域

種類	名 称	新設・ 既設	面 積 (h a)	位 置 (林小班)	特 徴 等
林木遺伝資源保存林	北海道カツラ1 林木遺伝資源保存林	既設	43.37	別表 参照	カツラ・イタヤカエデの遺伝資源の保存。
	北海道クリ3 林木遺伝資源保存林	既設	11.77	別表 参照	クリの遺伝資源の保存。
	北海道ケヤマハンノキ9 林木遺伝資源保存林	既設	7.09	別表 参照	ケヤマハンノキの遺伝資源の保存。
	北海道アサダ30 林木遺伝資源保存林	既設	6.96	別表 参照	汎針広混交林帯樹林のアサダの遺伝資源の保存。
	北海道ウダイカンバ31 林木遺伝資源保存林	既設	11.14	別表 参照	汎針広混交林帯樹林のウダイカンバの遺伝資源の保存。
森 林 計 画 区 計		5箇所	80.33		
特定動物生息地保護林	植苗オオワシ・ オジロワシ生息地 特定動物生息地保護林	既設	34.18	別表 参照	オオワシ・オジロワシの繁殖地、生息地等の保護
	森 林 計 画 区 計	1箇所	34.18		
森 林 計 画 区 合 計		6箇所	114.51		

(2) 緑の回廊の名称及び区域

該当なし

6 レクリエーションの森の名称及び区域

種類	名 称	新設・既設	面積 (ha)	位置 (林小班)	選 定 理 由	施業方法	既存施設の概要	施設整備	備 考
自然休養林	ポロト自然休養林	既設	395.65	別表参照	アイヌ文化の伝承施設「白老ポロトコタン」に接し、町内近郊唯一の原始性に富んだ森林で、ミズバショウ、ザゼンソウ等の湿性植物や多くの野鳥類の生息等、周囲森林と調和のとれた優れた景観を維持し、四季を通じて利用者が多い。	複天	歩道外 (国、白老町、民族文化伝承保存団体)	歩道延長 2900m	「*」は、保健機能に該当する森林
	* (自然観察教育ゾーン)		255.59						
	* (森林スポーツゾーン)		17.90						
	(風景ゾーン)		26.38						
	(風致探勝ゾーン)		11.77						
	* (風致探勝ゾーン)		84.01						
	計		395.65						
	森林計画区計	1箇所	395.65						
野外スポーツ地域	モーラップスポーツ林 野外スポーツ地域	既設	329.66	別表参照	モーラップ山を中心とした天然林主体の自然環境に恵まれ、近郊にはキャンプ場等の施設もあり、自然探勝と体力増進のための野外活動に利用されている。	複天 間伐 26.81 ha	スキー場 (民間)		
	森林計画区計	1箇所	329.66						
風景林	口無風景林	既設	35.79	別表参照	水面に映える樹種も豊富で、四季の変化に富んでいる。また、水鳥類をはじめ野鳥の種類も多く、レクリエーションの場として市民に親しまれる。	複天	遊歩道外 (国、北海道、苫小牧市)	遊歩道延長 1000m	
	植苗風景林	既設	256.19	別表参照	近接地に白鳥湖、ウトナイ湖があり、アオサギ等の水鳥をはじめ多くの野鳥が生息し、冬は白鳥の飛来が見られ、格好の探鳥の場となっている。	天			

種類	名 称	新設・既設	面積 (ha)	位置 (林小班)	選 定 理 由	施業方法	既存施設の概要	施設整備	備 考
風景林	支笏湖風景林	既設	28.02	別表参照	天然林に囲まれた神秘的な湖と、新緑や紅葉が美しく景観が優れている。 支笏湖をとりまく樽前山、白老岳、漁岳、恵庭岳、紋別岳の各山岳とも登山が容易で、高山植物も多く、それぞれ独特の山容を映した湖面の美しい景観と雄大な眺望を維持している。	天	車道 (苫小牧市)		
	苫小牧風景林	既設	217.13	別表参照	苫小牧市街から支笏湖への観光ルートであり、樽前山麓平地林のトドマツ、エゾマツ、カラマツ等、北海道特有樹種の森林帯が観光客の目を引いている。	複天 間伐 6.68 ha			
	オロフレ岳風景林	既設	811.23	別表参照	ダケカンバを主体とした森林で、山頂にはハイマツをはじめ高山植物の群落もあり、紅葉美に優れており、来訪者も多い。	複天			
	白老岳風景林	既設	225.51	別表参照	広葉樹を主体とした森林で、山頂には多種の高山植物が分布し、格好の登山の場として親しまれている。また、樽前山、風不死岳を含む秀峰やこれに続く雄大な樹海を眺望できる。	複天			
	ホロホロ山風景林	既設	139.71	別表参照	広葉樹を主体とした森林で、山頂には多種の高山植物が分布している。また、白老岳、恵庭岳、俱多楽湖やこれに続く雄大な樹海が優れた景観を見せる。	複天	登山道 (白老町)		
	白老川風景林	既設	363.58	別表参照	白老川の源流域に広がる森林で、渓谷岩崖が多く奇勝、奇岩をもち、新緑と紅葉時期は溪流に映え、優れた景観を見せる。	複天 間伐 12.47 ha			

種類	名 称	新設・既設	面積 (ha)	位置 (林小班)	選 定 理 由	施業方法	既存施設の概要	施設整備	備 考
風景林	インクラの滝風景林	既設	27.05	別表参照	滝を中心に、トドマツ、エゾマツといった針葉樹をはじめ多様な広葉樹からなる森林で、四季それぞれの色彩を映し、落差のある滝の豪壮な飛瀑景観を見せる。	天			
	倶多楽湖風景林	既設	37.99	別表参照	倶多楽湖に通じる観光道路沿線の広葉樹を主体とした森林で、神秘的な蒼い湖と緑の森のコントラストが美しく、観光のコースとなっている。	複天 間伐 0.85 ha			
	森林計画区計	10箇所	2,142.20						
その他	樽前山	既設	1.29	別表参照	(道路、駐車場、建物敷、登山道)		駐車場外 (苫小牧市)		
	森林計画区計	1箇所	1.29						
	森林計画区合計	13箇所	2,868.80						

注1) 備考欄の「保健機能森林に該当する森林」とは、「森林の保健機能の増進に関する特別措置法」に基づき、施設の整備を森林の施業と一体的かつ計画的に推進する森林のことを指す。

注2) 施業方法 単＝育成単層林へ導くための施業 複＝育成複層林へ導くための施業  
天＝天然生林へ導くための施業

## 7 公益的機能維持増進協定の名称及び区域

該当なし

8 その他必要な事項

(1) 施業指標林、試験地等

種類	名称	設定年	面積 (ha)	位置 (林小班)	備考
遺伝子保存林	ドロノキ支笏湖B 遺伝子保存林	昭和53年	2.94	1410 ほ	林木育種事業を計画的、効率的に実施するため現存する林木の優良遺伝子群を確保し、これを保存し、遺伝子補給源として活用する。
	森林計画区計	1箇所	2.94		
検 定 林	北北6号一般次代検定 林	昭和43年	4.26	28 た	精英樹選抜育種事業実施要領に基づく検定林。
	北北19号地域差検定 林	昭和63年	3.00	266 ち1	精英樹選抜育種事業実施要領に基づき、一群の精英樹系統種苗が揃って良好な成長を示す地域(適応範囲)を判定し、種苗の配布区域を定める目的で設定された検定林。
			1.41	266 ち2	
		計	4.41		
	北抵抗北2号試植検定 林	昭和52年	0.10	1303 に2	外国からの導入樹種や在来品種等の中で実用化の可能性のたかいものを現地に試植し、その生産性を確認する。
			0.11	1303 に3	
			0.06	1303 に13	
			0.09	1303 に16	
			0.03	1303 に18	
			0.02	1303 に19	
			0.01	1303 に20	
		計	0.46		
	北北24号育種集団林	平成21年	0.70	1218 と	精英樹で構成された次代検定林の中から、成長や材質などが優れた個体を選抜し人口交配を行い、これらの交配家系で育種集団林を造成し、一層優れた特性を有する第2世代品種を創出する。
森林計画区計	4箇所	9.83			
展 示 林	白老風害展示林	昭和31年	0.66	63 ろ	長期的に存置し、森林遷移について広報等に利用する。(試験地から設定替)
			1.10	64 ろ	
		計	1.76		
	苫小牧風害展示林	昭和31年	1.67	1301 い3	
	丸山グイマツ展示林	昭和63年	1.89	1311 い2	長期的に存置し、森林施業について広報等に利用する。
			2.02	1311 は	
		計	5.74		
	トドマツ優良家系 展示林	平成23年	0.53	1195 め	成長等に優れたトドマツ精英樹家系を展示し育種種苗の普及等に利用する。
アカエゾマツ優良家系 展示林	平成24年	1.17	1195 る	成長等に優れたアカエゾマツ精英樹家系を展示し育種種苗の普及等に利用す	
森林計画区計	5箇所	10.87			
試 験 地	森野エゾマツ人工林 収穫試験地	昭和48年	1.78	159 り	所属施行団の現行あるいは将来予想される施業法によって施業した場合の成長量、収穫量及びその他の統計資料を収集するとともに林分構造の推移を解明する。
	苫小牧アカエゾマツ人工林 収穫試験地	昭和59年	0.54	1220 へ	
	苫小牧植生調査試験地	昭和32年	18.73	1463 い	林冠破壊による植生の変化(風害後の遷移)。
	苫小牧広葉樹試験地	昭和50年	43.37	1205 い	落葉広葉樹林の更新。
森林計画区計	4箇所	64.42			

種類	名称	設定年	面積 (ha)	位置 (林小班)	備考
モデル林	水土保全モデル林	平成12年	0.30	240 は	水土保全林における治山施設の設置についてわかりやすく示す場として設定。
			0.10	240 に4	
			3.40	240 ほ1	
			3.91	240 と	
			3.00	241 い2	
			3.83	243 ら	
			15.33	244 い2	
	計	29.87			
	水土保全モデル林	平成12年	2.88	1188 へ	水土保全林における森林施業をわかりやすく示す場として設定。
			1.75	1188 ち	
計			4.63		
森林計画区計		2箇所	34.50		
森林計画区合計		16箇所	122.56		

## (2) フィールドの提供

対象地 (林小班)	設定の目的	備考
297い2、れ、イ、ハ 298い1、ち1、ぬ1、2、チ 299い5、ね、ら、ニ、ル、 ワ、レ、ツ、ネ	遊々の森として (ポロト遊々の森)	協定面積46.97ha ポロト自然休養林保護管理協議会
299 ぬ	木の文化を支える森として (イウオンネシリ)	協定面積4.35ha 白老町長
1227 ほ	多様な活動の森として (野生動物の住める森づくり活動の森)	協定面積0.50ha ヒグマの会
1229 ろ	社会貢献の森として (森林再生ボランティアの森)	協定面積2.57ha 宗教法人天理教苦錦分教会(1.98ha)、体験林業年輪クラブ(0.15ha)、リコージャパン(株)北海道営業本部(0.44ha)
1283 は 1298 か 1357 い2	社会貢献の森として (アオダモ資源育成活動の森)	協定面積2.02ha 特定非営利活動法人アオダモ資源育成の会
1355 ろ	社会貢献の森として (道新ぶんぶんの森)	協定面積7.05ha (株)北海道新聞社
1325 は 1326 ほ 1326 ぬ2	社会貢献の森として (イワクラ100年の森)	協定面積4.50ha (株)イワクラ苫小牧出張所
森林計画区合計		面積:61.26ha

## (3) 森林共同施業団地

名称	対象地 (林小班)		面積 (ha)	連携した施業 の内容	備考
安住・富内団地	民	1048 林班外	1,191	民有林と連携した 林産物の安定供給 システム販売	民: 10ha 450m <sup>3</sup> 国: 27ha 963m <sup>3</sup> 協定相手: むかわ町
	国	2044 林班外	1,191		
森林計画区合計	民		1,191	1 箇所	
	国		1,191		
	計		2,382		